

【島のくらしの情報】

豊島

①仕事（収入）の状況	高齢化率が約60%なので島の多くの人はお年寄りです。会社なども土木関係が数社あるくらいです。ですので、島には不足している職業がたくさんあるとも言えますので、自分の才覚しだいで活躍が可能です。イチゴ栽培で活躍している人もいますし、近年はカフェを開業する人が相次いでいます。
②住居の状況（貸家、空き家など）	空き家はあるが貸家が少ない状況です。こういう中でも、移住する方はなんやかやと家を見つけて転居してきています。
③医療環境の状況	巡回診療のお医者さんが週4日診察しています。歯科診療が週に1回あります。ただし、小豆島や宇野（岡山県玉野市）が近いので、島外の病院に通院している人も多いです。救急時には救急船で近隣の都市に運びます。
④福祉環境の状況	特別養護老人ホームが一つあります。
⑤教育環境の状況	保育所、小学校、中学校が各1校あります。小学校と中学校は2016年度に統合しています。高校は小豆島や高松の高校に通うことになります。
⑥上下水道・電気・ガスの状況	上水道あり、下水道はありませんが、合併浄化槽を整備している家があります。ガスはプロパン。電気は都市部と同等です。
⑦本土との交通手段（費用、時間、便数など）	「アクセス」の項をご覧ください。 フェリーは台風直撃でない限り、悪天候でも運行しています。瀬戸大橋線の電車が止まっても、その代替輸送としてフェリーが運航しているほどです。 郵便や宅配便が都市部と同等の速さで到着するので、通販では離島にいることを忘れるくらいです。
⑧島内の交通手段（費用、便数など）	島内バスがありますが、本数が少ないので、島民は自家用車が頼りです。
⑨買い物場所・物価の状況	人により、週に一度あるいは2週に一度と決めて、宇野や小豆島の土庄のスーパーに買い物に行っています。宇野や小豆島のスーパーは都市部とそん色のない品揃えです。価格も都市部と同等で、地場の魚介類は安いです。島内にも数件の小規模な商店があり、ちょっとしたものはまかなえます。 野菜は自分で作った方が安くておいしいと思いますよ。

⑩これまでの移住実績	島には案外に島外から転居してきた方々がたくさんいます。皆それぞれの才覚を発揮して暮らしてきています。美術館関連で転入している方がいますが、開館してからまだ年月が浅いため、長く定住できているかどうかの評価はこれからとなります。
⑪移住を希望される方の短期滞在、下見に対する支援の状況	地元公民館にご相談ください。
⑫移住にあたっての支援の状況	地元公民館にご相談ください。
⑬そのほか島での暮らしぶりについて伝えておくべき必要な情報	瀬戸内国際芸術祭の会場となったことから、豊島に転入してくる人がかなりいたようですが、定着した人はごく少数にとどまっています。やはり地に足の着いた暮らしをしっかりと考えなくてはならないと思います。お年寄りが多い島ですので、活躍の場はたくさんあります。新しい力をお待ちしております。